

# 浜 私 幼

横浜市幼稚園協会 協会報 No274

公益社団法人 横浜市幼稚園協会 発行  
〒221-0055  
横浜市神奈川区大野町1-25  
横浜ポートサイドプレイス アネックス5F  
電話 045 (534) 8708  
http://www.kids-yokohama.or.jp  
編集 横浜市幼稚園協会広報部  
発行者 木元 茂  
印刷所 株式会社横濱大氣堂

## 第26回父母セミナー開催

平成30年9月14日(金) 会場/鶴見公会堂

講師：山崎 洋実 先生

講演テーマ：

「戦わないコミュニケーション」  
～イライラとうまく付き合うには～



横浜市幼稚園協会と横浜市幼稚園父母の会連合会の共催で保護者を対象とした父母セミナーが開催されました。

講師には、「ママのイキイキ応援プログラム（通称ママイキ）」というコーチングの手法をベースにした講座を行っている山崎洋実先生をお招きし、約500名の参加者は軽快なトークに引き込まれ、笑いあり、涙ありの講演会となりました。その一部をご紹介します。



山崎 洋実 先生

### 経歴

旅行代理店、大手英会話学校勤務時代を通して接客 & 人材育成の楽しさを知る。結婚退職後コーチングに出会い、これまでやってきた事がコーチングだったことを知り体系的に学ぶ。その後妊娠出産、3年間の専業主婦生活を経て、身近なママ友達向けに講座をスタートした。日本で唯一の「ママ達の元氣と輝きを引き出すコーチング講師」として、多くのママから「ひろっしゅコーチ」という愛称で慕われている。

### 参加者への提案から始まった講演会

本日はよろしくお願ひします。私には高校2年生の息子がいます。

最初、みなさんにもご協力をいただいで、横あるいは前後4人で自己紹介をお願いしたいと思います。

では、自己紹介の内容ですが、名前、自分のこと一言で表すとしたら、何の制約もなく1日、何をしたいですか。じゃんけんではなく自己紹介の順番を決めてください。

次ページへ続く

## 戦わないコミュニケーション

～コントロールを手放し、  
イライラと上手くつきあうには～

講師：山崎 洋実 先生

日時：9月14日（金）

場所：鶴見公会堂



### ●では順番についての話です。

自分から、「私やってもいいよ」って言った方は、積極的な人が多く、どこでも「私、会長引き受けるよ」と言って、手をあげてくれる人です。次、「はい、やります」って言わなかったけど、「名前のあいうえお順でやりましょう」などと仕切った方は、私は決して1番ではやりたくないけれど仕切りたいという、1番複雑な気持ちの方です。次に、誰かに委ねてしまった方は、消極的な方です。順番を決める作業にも、自分が出ますね。いつもやらないことはやらないということです。みなさんにもパターンがあるように、当然子どもにもありますからね。兄弟でも違います。今日はこのパターンのお話をしていきたいと思います。

●さあ、自己紹介で、自分をポジティブに言えるか、それとも自分をネガティブに言うか、言い方には2パターンあります。ご自分のことをちょっとネガティブ以上に言った人は、子育てがしんどくなります。なぜなら、ダメの自分を通して子どもをみるので、子どもの嫌なところに焦点をあてるからです。

●1日あったら何やりたいですかについての答えでは、だいたいいつも「本が読みたい」「映画に行きたい」などでお母さん方、夢がない。余裕があるから大きいことが言えます。私の夢、ちょっと小っちゃかったなという方「あ、私、病んでるんだ～」ということに気がついて帰ってください。そんな精神状態で、子育ては楽しいはずがないです。なにをそんなにガミガミしているのでしょうか。子育てで、例えば「なんでこぼすの？」って言うでしょ。なんでこぼすかという、幼児だからです。子育てって幼児が幼児であることを怒ることになります。「なんでこぼすの？」って今日から言ったら、自分でノリツッコミ、「幼児だからです」。そんな自分が嫌ならスルーできるほうが良いですよ。でも、それはそれで余裕がないからです。24時間の夢さえ語れないくらい、毎日頑張っているからでしょう。先程の質問で出した答え、こんな簡単

なこともできなくなっちゃうんだってことですよね。そこで、1つ目の宿題を出したいと思います。今やりたかった夢をどうぞ、できる形にしてきてください。3時間できる人は3時間。自分で長さ決めてくださいね。24時間使うことが目的ではありません。“できる形にすること”です。でも、実際に連れで難しいなど思った時、そんな時はさっきの4人組の力を借りてください。近く頼れる人がいるんだったらいいけれど、そうではない時に、今日の話思い出してください。なぜこんな話をしたかという、この一番手のかかっている大変な時に、色々な人の手をかりてほしいからです。大きくなったら本当に楽になりますが、この時には必要です。私も色々な人の手を借りて、育ててきました。人を頼る・甘えるってすごく大事です。子育てで息詰まる人の特徴その1は、人に甘えられない、頑張り屋さんです。人に頼る練習と思ってやってください。日本人は人に頼って甘えるのがへたくそ。本当に、これは私が15年間伝えてきて思うことです。子どもは必ず、手を離れていくんです。だから今が実はすごくピュアでいい時ですよ。ただし、大変さももちろんあります。でもだから上手に頼りながらやってもらいたいと思います。

### 【インドの方の子育て】

インドの方の子育ては、「あなたが、ここまで無事に、こんなに立派に大きくなったのは、色々な人に助けられ、たくさんの人に迷惑をかけたけど、許してもらい、助けられてきたおかげよ。あなたがここまで大きくなるまでに、何人の人に助けてもらって、許してもらったと思う？あなたがここまで立派になったのは、色々な人の助けがあってよ。さあ今度は、あなたが次の人を助けなさい」と言うんですって。すごくないですか？皆さんもやったことをぜひ次の世代に返してってください。東南アジアの国々の方は本当に子どもに優しいの。日本はね、本当に冷たい国なんだなって思っています。あんなにお母さんが周りに気を使ってピリピリ子育てしている国は他にはなかったです。これでは、日本は人口はどんどん減って滅びてしまいます。みなさんのお子さんが一体何人の老人を支えるんでしょうか。しかし支えてもらう老人は子どもが泣いたら怒り、保育園を造るって言ったら文句を言う人もいます。だから必ずこのインド人の話はしています。みなさんにもう一つ宿題を出したいと思います。期間限定で構いません。国籍を変えてください。「横浜市に住む、インド人」になって欲しいんです。これを、今日ここで聞いた話を幼稚園に帰ったら拡散してほしいです。私の講座の受講生で何人かインド人と結婚されていて、インド人の旦那さんにこの話したら本当に

そうなんだそうです。お母さんがご飯食べ終わるまでのたった10分15分の間に、3人のインド人が抱っこしてくれたそうです。こんな姿、日本で見たことありますか？ないですよ。泣かないで大きくなった人がいるんでしょうか。人に迷惑をかけないで大きくなった人がいるんでしょうか。覚えてないだけです。だから、この話をぜひ広めたい。だって、お金じゃない、最後は気持ちですからね。

### 【コントロールを手放す】

私たち人間は＜感動＞の動物です。行動することは簡単です。ただし、目的やゴールがないとやり続けられません。目的やゴールに向かって人は動いていくので、ここを見せしていくのってすごく大事です。ベネッセのデータだっと思いますが、子どもの頃から、よく将来の話や夢とか、そういう話をよくしている家庭の子どもの勉強時間は、中学校のときに飛躍的に伸びます。何故かという、目的が、目標があるか、です。なりたいたいから、そのためには勉強するという手段が必要になります。皆さん、「勉強しなさい」とそれしか言わない。それで勉強が出来たら、だれも困らないです。今、3～5歳のお子さんの子育てをしているお母さんに言いたいのは、子どもは行動で動くピークがあります。ピークは5歳です。いちいち行動ばかり与えている子育ては遅い、意味ないことです。それを変えていけないといけません。こんなスキルを使って子どもを動かしましたよね。「おどし」「きょうはく」・・・「ご飯全部食べなかつたら、もうおやつを買わないからね」とか、「早く寝ないと、明日もうどこにも行かないよ」とか。これはいつか終わりが来るということを知っておかないといけません。この行動のコントロールを手放さないと大変です。練習を今からしていつてもらおうと思います。

ある時、駐車場から入り口まで歩いていると、5歳くらいの男の子が泣いていました。車で寝ちゃって、無理やり起こされ、「行きたくない、車にいる」と。お母さんはその子を無理やり連れて行き「あんた、せっかく来たんだから楽しみなさい」と言ったんです。なんでも動かしたいんだなって思って見ていました。子どもが転んだとき、「痛い、転んだ」と言っているのに、それを見たお母さん。「痛くない」と言う。これ、子育て七不思議。お母さん、どんな子育てしてるんでしょうか。さあ、今日から意識してほしいことは次のことです。世の中には、コントロールできることと、できないことがあります。たとえば、雨が降ってるでしょう。雨やませてください。できる人？いないですよ。何故ならお天気はコントロールができないからです。ですから、努力しようと思いませんよね。子育て

も一緒です。親子でもできないことがあるんです。そこをまず知ることです。「雨やめ」の子育ては、しんどくないですか？どンドンコントロールできないことが増えていきますから。一番言うことを聞かないピーク、思春期の中高生に「勉強しなさい」と言ったら、「やる気だて！」とは言わないですよ。そんな子どもに言ってやらせるより、気持ちよくスルーできる心を持った方がいいです。スーパー銭湯に行ったら気持ちよく帰ってきたら、見逃せることがいっぱいあるんです。どんなにAIの時代になっても子育てだけは原始的ですからね。

### 【自身の感情コントロール】

人の感情はコントロールできないけど、自分の感情はどのくらいコントロールしていますか。

私たち、外ではきちんと感情のコントロールできている時もあります。できない場所はどこでしょうか？そうです、家の中です。なぜなら私たちは、外で頑張る生き物だから。外で頑張ったらその分どこかでゆるめなくてははいけません。どこでゆるませるんですか？家で、となりますよね。子どももそうです。

私たちは人の機嫌に左右されるものです。子どもは、その塊です。大人になったらつまらなくても静かに聞くということが出来ますが、子どもには難しいので、騒いではいけないところで騒ぐし、言ってはいけないことを、言ってはいけない場所で言います。もう、感情と感情のぶつかりあいです。ですから、子育てしている人はまず、自分の感情と上手く付き合うことが大事です。ですから、自分をご機嫌にすることを優先にやってください。でも、お母さんがリフレッシュして帰ってきたら、子どもが「キャー」と言っても「はいはい、幼児幼児」ということができると思います。自分が今日楽しいなって経験をしたら、夫が不機嫌で帰ってきても「お疲れさん」と言えるじゃないですか。自分の感情が良い状況の時は、いっぱいスルーできることがあるんです。でも私たちは人間なので、いい時もあれば落ちる時もあります。これをいかにはやく上げられるかが大事なんですね。相手をコントロールするんじゃなくて、不機嫌に帰ってきた夫に、「外でいい人やって、ここでダメな自分、嫌な自分をだしているね」と思ってください。「雨降れ」とパートナーにも言う、子どもにも言う、それはしんどいですよね。スルーできる心を持った方が、何よりも楽です。練習は必要だけど。だって、コントロールできない領域のことを、皆さんはコントロールしようとしているのです。自分と上手く付き合う。イラッとしない自分の心持ちを作ること、少し意識を向けていつてもらおうと思います。

## 【「YES」のコミュニケーション】

「お母さん、このお菓子食べていい?」「(顔を見ず怖い口調で) いいよ」それでは子どもはどちらかわかりません。「全部食べないから・・・」なんで、子どもに気を遣わせているんですか。だめならだめって言ったらいいいし、いいなら、どうぞー! って明るく言ったらいいいです。怖い口調で「いいよ!」は、伝わらないコミュニケーションです。では今から、親子の会話をしますね。

『ファミレスに行きました。おもちゃコーナーでお人形を見つけたAちゃんが、ぱっと手に取り「お母さん、見てこれ、かわいい」って言ったんです。するとお母さん、こう答えました。「もうやだ、それ。この間もあったよね。でもすぐにほっぽり投げて、片付けられないから。今日は置いていきなさい』もう、お母さんせっかちだから、1言ったら10返す、「待つ」ができないですね。「待つ」ができるコミュニケーションのやり方を一つお教えます。会話の始まり、ポイントがあります。必ず、「YES」から始めてください。「お母さん。見て、これかわいい」って言われたら・・・「YES-」日本語で大丈夫です。皆さんは普段、お子さんだけでなく、普段の会話でどのくらいYESを挟んでいますか。挟んでいないんです。大体小学生の間までに、「YES」を言ってください。この「YES」貯金をたくさんしておいて欲しいんです。人は「YES」が欲しいのです。「お母さん、転んで痛い」「YES! 痛いね」です。なのに、みんな、「NO! 痛くなーい」ではないですか? 「YES」を心がけてください。この「YES」をいっぱいもらっている子は、中高生で差が出ます。小学生までは本当沢山言っておいてあげてほしいです。中学生でも遅いってことではないので、あきらめないで、「YES! YES!!」って言ってあげてください。「YES」が何かと言ったら、肯定ですよ。さっき、自己肯定感がとお話していましたが、それです。やる気スイッチは、人では押せないんです。親でもあってもです。やる気スイッチの入れやすい人は、「YES」をたくさん言われている子です。でも、「YES」をもらっていない子は、肯定感が低いから、どうせやっても無駄となってしまいます。押しでも入らないですよ。親にできることは、いつでも入れていいよという状態にして、中学生にあげてあげることです。小学校の間は楽しさがキーワードです。

感情の言葉は特に「YES」と言ってあげてください。人は気持ちを見てほしいからです。「お母さん、今日運動会の練習で疲れた」って帰ってきたら、「おかえり～ YES! 疲れたね」と今日だったら言えますよね。「YES」というべき日常は、もっと一杯落ちていますよ。

練習してみてくださいね。

## 【人から可愛がられる子に】

どんな子に、“この一つ”だけ持って、世の中に、社会に出して行こうと思ったら、なんの力、どの力、何があったらいいと思いますか? いっぱいあると思います。私は「みんなにかわいがられる子」「助けてもらえる子」になれたら、と思っています。人間は皆感情があるんですから。なので、誰にでも気に入られるってことが大事だと思っています。

子育ては、やってきたことが自分に返ってきます。大山に家族で行った時の話です。夫と息子はぱぱと登っていきますが、私は・・・そしたら、「おかあさん」って息子が降りてきてくれたんです。「はい」って手を出してくれたの。私もう何年ぶりに手を繋いだらう・・・。「お母さん、はい」って「遅いから、はい」って。スローモーションですよ。「お母さん、そこ段差あるからちゃんとしないと引っかかる」「わかった、ありがとう」。「お母さん、そこ石があるから気をつけなさい」「わかった、ありがとう」・・・いい子に育ったな～って。3年前は、私が引っ張っていたのに。戻ってくるのは意外と早いです。あっけないものです。今やることが、全部戻ってきます。

皆さん。「大丈夫、あなたはお母さんの子で、みんなに愛される。大丈夫よ」って育てたほうがよくないですか。困ったら助けてもらいなさいって。嫌だという人もいるかもしれないけど、絶対YESと言って助けてくれる人がいる。そして、自分が助けてもらったら、今度は自分が困っている人を助けなさいって。マイナスのボールばかり投げるのではなくて、プラスのボールも常に投げてもらった方が良いでしょう。

ここから、さらにいい話があったのですが、時間になってしまいました。

子育ては期間限定なので、是非楽しんで。全部いい思い出なので、素晴らしい子育てをしてもらいたいと思っています。ちょっと先輩からの話として聞いていただけたらと思います。

### ご案内 *Information*

※講演会の内容全文は、横浜市幼稚園協会ホームページ内、父母の会連合会ページに掲載しています。そちらも是非ご覧ください。



<http://www.kids-yokohama.or.jp>

## 第2回 教員研修会報告 10月17日(水)

第1分科会は、名古屋学芸大学教授 津金美智子先生を講師としてお迎えし、横浜市教育会館で行いました。テーマは『深い幼児理解に基づく評価』ですが、まず幼稚園教育要領を保育の現場でどう生かすかという事を丁寧に説明していただきました。次に5歳児の活動の様子を、写真を使って可視化し、その姿を根拠に子どもの一言や、行動の変化、表情の違い等を読み取ることの大切さを伝えていただきました。

この講演で心に残ったのは『評価することとは、幼児理解に基づいて、その子どもの発達の中で「著しく変わってきたこととはどんな事なのか」「そのきっかけとなったことは何か」「その具体的な指導の過程」を示す大事な記録。3歳4歳5歳それぞれの活動の中に試行錯誤があり、「何に気付いて試そうとしているのか」「何を不思議に思っているのか」「どんなことを予想したのか」「予想した結果、何を確かめたかったのか」「思ったようにいかなかった時、次にどうしようと思っているのか」などそのプロセスを、日々しっかり記録し、子どもの心が揺さぶられる体験を捉え、援助し、何が以前と違って来たか、発達の姿として理解すると同時に、自分の指導の在り方を振り返ることであるのです。』ということでした。

(聖母幼稚園 櫻井 つた江)

第2分科会は、講師に鶴見大学短期大学部附属三松幼稚園 園長 鮫島良一先生をお呼びして、「遊び・造形・めまい」というテーマで研修を行いました。造形というと「作品」の完成度に重きを置きたくなりますが、保育現場においては過程をどう捉えていかに重要性を感じます。(作る・遊ぶ)(作る・遊ばない)(作らない・遊ぶ)など日々の生活の中で、時に作った物が遊ぶものとして捉えられたり、うっとり眺める気持ちになったりと、先生たちがその子の取り組み姿を大事に語れるようになると造形はより身近なものとなります。フランスの社会学者、ロジェ・カイヨワは著書『遊びと人間』の中で遊びには4つの働きがあるといっています。4つの働きとは、競争(アゴン)、偶然・運(アレア)、模倣(ミミクリー)、めまい(イリンクス)です。スポーツや鬼ごっこは競争(アゴン)型の遊び、競馬やパチンコなどのギャンブルは偶然(アレア)型の遊び、ままごとなどの「ごっこ」は模倣(ミミクリー)型の遊び、滑り台やジェットコースターはめまい(イリンクス)型の遊び、とされています。その中のめまいは子どもたちにとってはドキドキとなります。遊びながら作品を作り上げるドキドキ感や想像力の世界に没頭できる環境など、教育的意味づけをしない関わり方・言葉かけによって子どもたちは世界は大きく広がるのではないのでしょうか。「子どもたちは、これって何だろうの世界に生きている」という鮫島先生の言葉に改めて遊び・造形・めまいの世界が広がりました。

(やよいだいこども園 柳谷 太)

第3分科会は、園やご家庭で読まれ、多くの子どもたちに楽しめている「わにわに」シリーズ等を描かれた絵本作家の小風さち先生にご講演をいただきました。

まず、絵本とは大人に読み聞かせしてもらおう中で、「子どもは言葉を耳で聞き、絵を眺めて絵本の世界を楽しむものである」「子どもは言葉(物語)を咀嚼しながら味わう(食べる)中で、言葉が子どもにとって栄養となる」「だからこそ質の高いものを選ぶ必要がある」ということを伺いました。

また、「絵本はリアルであっても、子どもにとってそこにリアリティーがなければ子どもには読み継がれない」「リアリティーのある絵本は物語と現実との架け橋となる」というお話をいただき、日々子どもに読まれる絵本には、言葉一つ、作画の細かなこと全てに心血が注がれ、作者の想いが表現されていると改めて感じた講演となりました。

(あけぼの幼稚園 樺木 元生)



## 平成30年度幼保小教育連携研修会について

7月24日(火) 新都市ホールで、平成30年度幼保小教育連携研修会が行われました。

はじめに、白梅学園大学大学院特任教授の無藤隆先生による「学びに向かう力を育む保育・教育」というタイトルで基調講演が行われ、その後、横浜版接続期カリキュラムとの関連、幼稚園・保育園・小学校の実践報告、シンポジウムと続きました。

基調講演では、今年実施された新しい保育所保育指針や幼稚園教育要領のねらいが、幼稚園・保育園・認定こども園における乳幼児に対して同じ教育をし、そこで育つ子どもたちの力は小学校・中学校まで繋がっているという発達の連続性を強調しているということ、また、子どもたちの発達においてとても重要な資質能力をどう広げていったら良いのか、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)」とはどういうことなのか、具体的な事例をあげながらわかりやすく説明してくださいました。

無藤先生より具体例の映像と併せて、保育所保育指針や幼稚園教育要領改訂の大きなねらいについてお聞きした後、各教育機関からの実践報告だったので、「10の姿」を現場ではどのように捉え考えていけばよいのか、実際に生活している子どもたちと先生との関わりの工夫や試行錯誤の様子、子どもを取り巻く自然や物だけが環境ではなく周りに存在している人も含めて全て育っていく環境であること、子どもたちの成長の表れや達成感・満足感を得ている様子がとてもよく理解できました。

特に印象に残ったのは「学びに向かう力」というのは小学校

に入って初めて身につくものではなく、乳幼児期の保育・教育に原点があり、人格形成の基礎と言われる乳幼児期に資質能力を育てることが重要であるということでした。資質能力とは、子どもたちを取り巻くすべての環境を通して子どもの中に育つ力を明確にし、乳幼児期からしっかりと育てていながら小学校・中学校への基盤を明確に作り繋げていく、という考え方です。

この研修を通して私たちが携わっている保育や教育は、赤ちゃんから幼児期へ、そして小学校・中学校へと繋がっていくという意識を持ち、日頃の保育や授業を振り返ることができたのではないのでしょうか。そして、より良い保育・教育に向けた今後の幼児教育の在り方、また幼児教育の成果をふまえた学校教育の在り方について考えることのできる貴重な研修会だったと思います。改めて「幼児に育ってほしい姿(10の姿)」について、幼保小の連携や繋がりを考えていくことが大切であると感じました。(汐見台東幼稚園 関根 由華)





# フリー！フリー！子育て

公益社団法人横浜市幼稚園協会 子育て教育相談員 飯塚 史 (臨床心理士)

早いもので今年も終わりに近づいてきましたが、皆さんにとってどんな1年だったでしょうか。楽しかったことが多かったでしょうか。それとも大変なことが多かったでしょうか。子どもと過ごす毎日は楽しくもあり、大変でもあり、という感じでしょうか。「毎日楽しく怒らずに過ごしたい」と願いながら、なかなか思うようにいかないことも多いかと思えます(私もその一人です)。

子どもにとって親は頼れる存在であり、見本です。だからといって、いつもにこにこ笑っていて、優しく、叱るべき時にはしっかり叱れる、という姿は理想ではありますが、難しいのが現実ではないでしょうか。ただ子どもたちは優しいので、そんなに上手く出来なくても、お母さんやお父さんが大好きです。そして子どもたちはその大好きなお母さんやお父さんに、いつも自分を見て欲しいと思っています。常に見ていることは難しいのですが、子どものことで特に見て欲しい二つの場面があります。

一つ目は子どもが何かをやるうとしているとき、やったとき。「見て見て、こんなにいっぱい集めたよ」「ねえ、こんなことできたよ」と言うときは、「いっぱい集めたんだね」「こんなことできたんだね」と是非手を止めて見てあげ、その気持ちを受け止めてください。二つ目は子どもが傷ついたとき、痛かったとき、守って欲しかったとき。「(転んで)痛かった」「○○ちゃんが遊びに入れてくれなかった」と言うなどネガティブな内容の時は聞く方も心がざわざわしがちで、落ち着いて受け止めることが難しいかもしれません。「(転んだのは)ちゃんと前を見ないからでしょ」「あなたも意地悪言ったんじゃないの？」などと言いたくなるかもしれませんが、そこはぐっと我慢。「転んで痛かったね」「遊びに入れなくて悲しかったね」などまずは気持ちを受け止めてあげてください。それだけで子どもの心にはエネルギーがチャージされて元気になります。そして、それを繰り返しながら、少しずつ、子どもなりに考え、学んでいくのです。

一つ目の場面について、「見てあげたいけれど、下の子で手が離せない」「忙しくてなかなか出来ない」という方に一つヒントを。必ずしもそばにいてじっと見ていなくても大丈夫です。大人は大人で用事をしながらも、その子が何かやっているときにそれを言葉にして実況中継するのです。例え

ば「おままごとするんだね」「おなべで何を煮てるのかな?」「なにができたかな?」「いっぱい作ってお皿に並べたね」などと、隣についていられずとも、見た場面場面を言葉にして実況中継します。それだけでも子どもはたくさん見てもらって安心します。「すごくおいしそう」「上手に出来たね」など褒め言葉をつければ完璧ですが、なかなか褒めることが見つからなければ、実況中継だけでも十分です。

二つ目の場面は、ネガティブな状態を言葉にして受け止めなければならぬため、受け止める側に心の余裕がないと難しいかもしれません。心の余裕のないときは、何かでいっぱいいっぱい、疲れているときが多いのではないのでしょうか。無理せずにお子さんと一緒に昼寝をする、お子さんが幼稚園に行っている時間帯に美味しいコーヒーを飲んだり、あまーいケーキを食べたり、おしゃべりをする、散歩をして身体を動かすなどで、大人の方も元気をチャージしましょう。

お子さんの「困ったなあ」というお話については、子育て教育相談室でもお手伝いできることがあるかもしれません。お話して一緒に考えながら、ご相談される方が少しでもほっとしたり、元気になれることを目指しています。お電話をお待ちしていますね。

## 子育て教育相談室

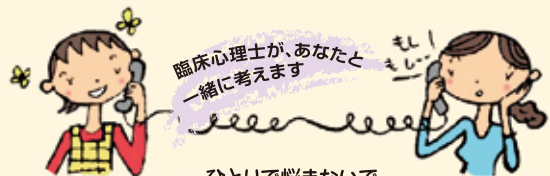
【相談日】

毎週火曜日・金曜日(年末年始、祝祭日を除く)

【受付時間】

10時~12時

13時~15時



ひとりでも悩まないで...  
相談専用ダイヤル

045-534-8837

公益社団法人 横浜市幼稚園協会  
http://www.kids-yokohama.or.jp  
TEL 045-534-8708

# 自転車利用時の基本的なルールについて

横浜市道路局交通安全・自転車政策課 担当課長 津野 幸太

## 1 はじめに

自転車は、便利で身近な乗り物として、買物、通勤、通学、子どもの送迎などの移動手段として、多くの人に利用されています。

一方で、ルールに対する意識が低い自転車利用者も多く、横浜市内でも重大な交通事故が度々発生しており、自転車に同乗する子どもの命にまで危険が及ぶような事故も発生しています。

昨年、神奈川県内において自転車乗用中の交通事故で亡くなられた方のうち、約76%に一時不停止などの交通違反があったとの警察統計があります。ルールを守っていれば、防げたかもしれない交通事故も多いのです。

そこで、今回は子どもを同乗させる場合も含めた安全に自転車に乗るためのルールを確認していきます。

## 2 自転車利用時の基本的なルール

「自転車安全利用5則」とは、内閣府から示された、自転車利用時の基本ルールのことです。

### (1) 「自転車は車道が原則、歩道は例外」

道路交通法上、自転車は「軽車両」です。つまり、自動車などと同じ「車両」であり、車道を走ることが原則です。

また、歩道は歩行者のための道路であり、自転車の歩道通行は例外です。普通自転車が、歩道通行を許される場合は、次のとおりです。

- ①歩道を通行できることが道路標識等で示されているとき(普通自転車歩道通行可の標識がある場合)
- ②13歳未満の子どもや70歳以上の高齢者、身体の不自由な方が運転するとき
- ③車道又は交通の状況に照らして止むを得ないと認められるとき(車道が工事中、駐停車車両が多数あり、車道を走行することが、かえって危険である場合など)

### (2) 「車道は左側を通行」

自転車は、車道の左側端を走行します。

### (3) 「歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行」

歩道を通行する場合は、歩道上の車道寄りをいつでも止まれる速度で走ることが原則です。歩行者の通行の妨げになる時は、一時停止してください。この場合は、自転車から降りて、押し歩きをするとうまいでしょう。

### (4) 「安全ルールを守る」

自転車を運転しながらのスマートフォン操作や傘さし運転は、不安定で危険であり、交通違反です。

また、信号はもちろん、一時停止など道路にある標識にも「自転車を除く」という補助標識がない限り、自転車は従わなければなりません。

### (5) 「子どもはヘルメットを着用」

道路交通法上、13歳未満の子どもは保護責任者は、子どもを自転車に乗車させる際にヘルメットを着用させるよう努めなければなりません。もちろん、子どもを同乗させる際も、ヘルメットを着用させてください。

自転車利用中に転倒して、同乗中の子どもが頭部を強打し、死傷する事故も発生しています。

なお、自転車乗用中の事故で亡くなった方の主な損傷部位を見ると、頭部が大半を占めています。万が一に備え、大人の方もヘルメットの着用をお勧めします。

## 3 子どもを自転車に同乗させる際のルール

子どもの送迎で自転車に子どもを同乗させて利用している保護者の方も多いと思います。原則自転車の2人乗りは禁止されていますが、16歳以上の運転者が6歳未満の幼児を同乗させる時で、次に掲げる場合は除外となります。

- ①幼児用座席に幼児1人を乗車させ運転する
- ②幼児1人をひも等で確実に背負い運転する
- ③幼児用座席に幼児1人を乗車させ、幼児を1人ひも等で確実に背負い運転する
- ④幼児二人同乗用自転車の幼児用座席に幼児を2人乗車させ運転する



ポイントは、「ひも等で確実に背負い」です。「抱っこ」での乗車は認められていません。ハンドル操作に影響を及ぼし、また、視界を妨げる恐れもあり危険です。

## 4 おわりに

便利な自転車ですが、利用の仕方によっては、交通事故の被害者にも加害者にもなり得えます。この機会に自転車のルールを再確認し、安全な利用を心がけましょう。

なお、横浜市では、自転車利用時のルールをわかりやすくまとめた「みんなのサイクルルールブックよこはま」を作成し、ホームページ上に公開しています。こちらも是非、御一読ください。

# 平成30年度 第2回幼稚園・認定こども園 就職フェアの開催

総務部長 小瀧 剛

盛夏の8月4日(土)、横浜そごう9階、新都市ホールにて、(公社)横浜市幼稚園協会主催、横浜市子ども青少年局後援による、本年度2回目の幼稚園・認定こども園就職フェアを開催しました。

このフェアは幼児教育を志している、新卒、既卒の求職者を対象に、出展を希望した協会加盟園が106ブースに分かれて、各園への就職促進を図るもので、本年で4回目の開催となりました。

各園から説明要員が3名ずつ参加、協会役員、事務局約30名、横浜市からも5名ほどの参加があり、スタッフ総勢約350名で訪問者450名の対応にあたりました。北は北海道、南は大分県からの参加者もあり、例年通り大変盛況なフェアとなりました。これからは、訪問を受けた各園が就職希望者の園見学を受け、最終的な採用につながるよう丁寧に対応する事が求められていきます。

フェアの参加者からの声では、「実際に働いている方にお話を聞くことができ、保育内容を具体的に知ることができました」「先生方の表情も笑顔で楽しい仕事、大変だけどやりがいのある仕事なんだと実感でき、私も一緒に働きたいと思いまし

た」「丁寧にご説明をしてくれる園がほとんどで、聞きたいことが聞けました」「一度に多くの園の話聞くことができよかったです」などの感想が寄せられています。

求職者が必要とする情報を、各園が丁寧に伝え、幼稚園の仕事に興味・共感を持ってもらえた様子が伺えます。情報提供の意味では成功したと言えますが、最終的に各園への就職が実現して初めて「成功」と言えると自覚しております。

各園への就職に貢献できるよう、フェアを含めた諸活動の改善に努めて参ります。



## Congratulation

秋の叙勲 おめでとうございます

瑞宝双光章

丸山 征 先生

(学校法人まるやま学園 かおり幼稚園 園長)



※瑞宝双光章：

国及び公共の公務等に長年にわたり従事し、功績を挙げられた方に対して、国家が表彰する勲章。

平成30年度神奈川県私立学校教育功労者表彰  
受賞 おめでとうございます

田野岡 由紀子 先生

(学校法人山王台学園  
認定こども園山王台幼稚園・風の子こども園 園長)



※神奈川県私立学校教育功労者表彰：

私立学校教育の振興を図るため、私立学校の教職員、校長、園長、理事長及び設置者等を対象として、他の模範となる特に顕著な功績をあげた教育功労者を表彰することを目的とする。

## 編集後記

秋から冬へと季節が移り、月日の経つ早さを感じています。今年の秋はきれいな落ち葉が少なく、子どもたちと押し葉や造形を楽しむ機会が減りました。夏の厳しい暑さや台風による塩害の影響ではないかとも言われています。

毎年巡ってくる春夏秋冬の自然の恵みを当たり前と感じていましたが、大切な贈り物を頂いていたのだと感謝する日々です。

くる年が、皆様にとって良き年でありますように！

(広報部 加瀬 容子)